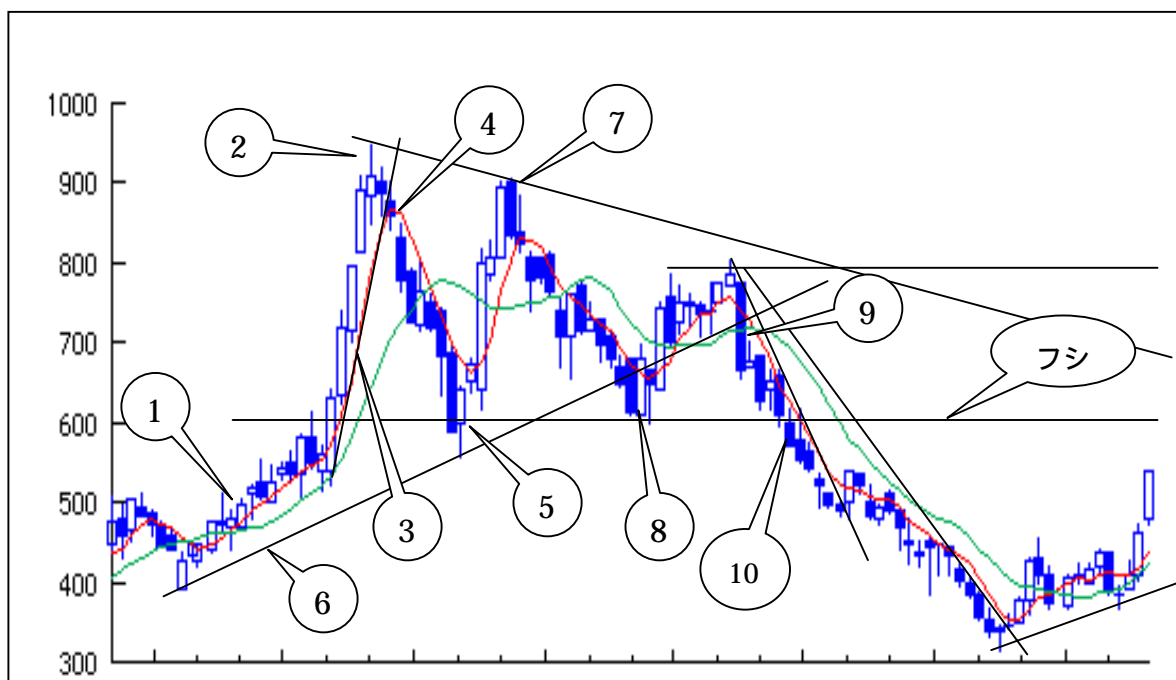


今回も色々な分析手法を使ってチャート分析をしてみたいと思います。



上のチャートは上昇して来た株価が一旦移動平均線を下回りましたが 再度移動平均線の上に出てきた事で**グランビルの法則の買いシグナル**となります。その後移動平均線を下値支持線として上昇を加速して行きます。この場合どこまで上がるのかよりも売りシグナルが出れば迷わず売ると言う考え方が大切になります。そこでこの様に急騰した場合に使える分析手法はと言うと、**トレンドラインとローソク足**が有効だと言えるでしょう。

の様になりに上昇した後の「コマ」の出現は相場転換を暗示しており、又の様には上昇が加速した直近2本のローソク足の右下の角を結んで引くトレンドラインも有効です。の様にはこのトレンドラインからはみ出せば殆どのケースで上昇はストップします。このチャートでもその例にもれず下降トレンド入りとなっています。その後 **下ヒゲ陽線の実体が「はらみ線」**となり相場転換を暗示しています。その後株価は上昇に転じてローソク足の暗示が的中した事を物語っています。その時に付けた下ヒゲの安値と上昇の起点となった安値を結んでの上昇トレンドラインを引きます。株価がこの上昇トレンドラインを下回れば株価の上昇は終る確率が高いと判断します。再度上昇に転じた株価ですが **の売りシグナルと言われる「かぶせ線」**の出現で下降に転じています。この時に前回の高値と今回の高値を結んで下降トレンドラインを引きます。この下降トレンドラインが今後株価の上値抵抗線となって上昇を阻む存在となるのです。言い換えればこの下降トレンドラインを突破しない限り更なる上昇は

ありえないと言う事になります。

下降に転じた株価が 上昇トレンドラインを下回りその後反発し再度上昇トレンドラインの上に戻しますがこの場合は相場変化の前兆と捉えた方が良いでしょう。その後 再度上昇トレンドラインを下回った事で上昇相場は終了し下降相場へ転換したと判断できます。ここでポイントになるのが の所です。

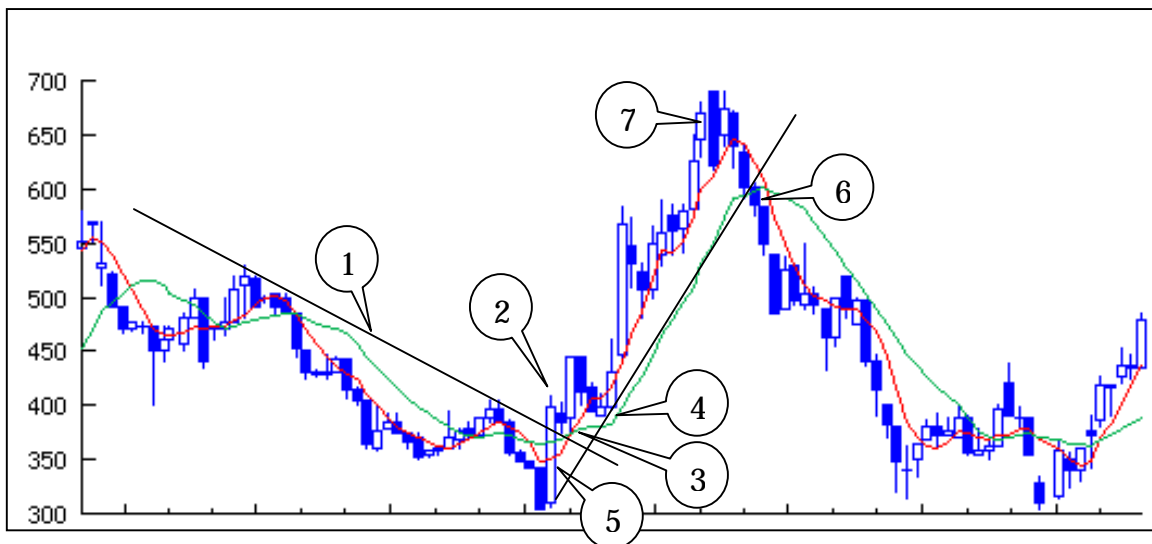
の反発でフシを形成しておりここで下げ止めるのか？それとも下回るのかは非常に重要だと言えます。ここで下げ止まればこのラインを下値抵抗線としてのボックス相場が予測出来ますが、もし下回る様なら上昇のスタート時点までの大きな下げがありえる事を意味しています。

上のチャートでは結局フシを下回り大きな下げとなっています。

その後株価は下げる所まで下げた後、底打ちから反転上昇していますが目先そのフシで頭を抑えられる事になるでしょう。その後の動きを予測すれば、移動平均線が上昇中である事から移動平均線辺りまで調整し再度上昇、その時仮にフシを突破したとしてもその上に有る下降トレンドラインが頭を抑える事になります。現在発生している新しい上昇トレンドラインと下降トレンドラインに挟まれた動きになるだろうと考えられます。

次は下のチャートを分析してみましょう。

投資家の方が知りたい事は「いつ買っていつ売れば良いのか」この一点だけです。そこでそこにポイントを絞って分析してみましょう。



まず2つの山の高値と高値を結び下降トレンドラインを引きます。

の所で下降トレンドラインを突破し、更に株価が移動平均線の上に出てきました。 のゴールデンクロス出現、 の移動平均線で反発し移動平均線が上向きに推移しています。この条件が揃えば株価は間違いなくある程度は上昇し

ます。ある程度と言うのはどこまで上がるか、いつまで上がるかはそれぞれの銘柄の材料や、業績、その他の条件によって違って来るからです。

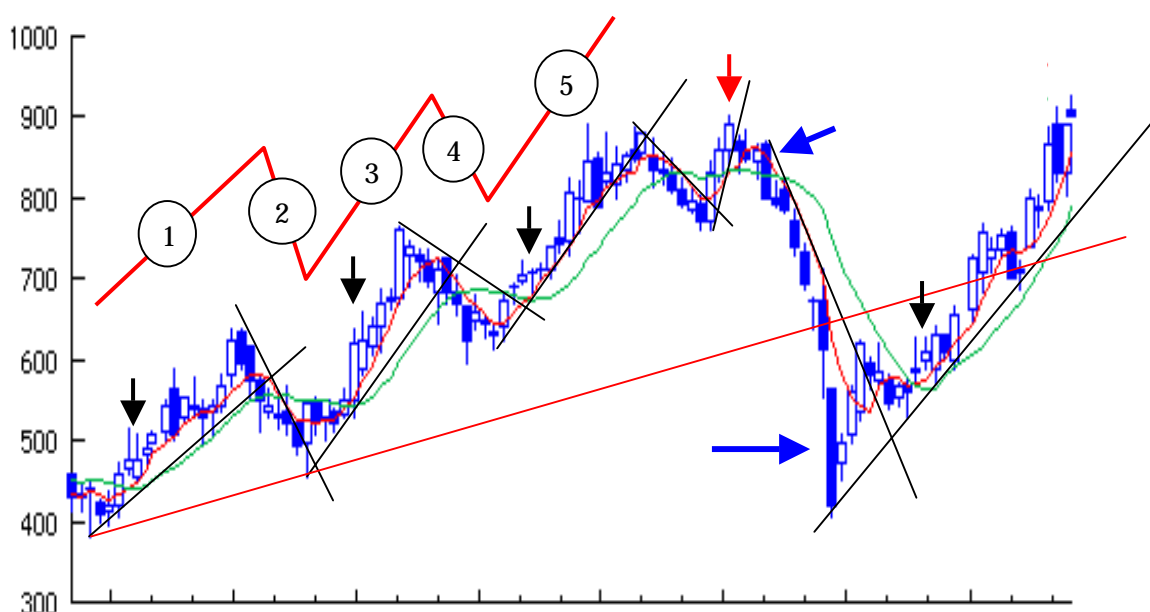
上記は基本的な株価上昇のパターンで分析しましたが次はローソク足で見ましょう。

ローソク足で判断するとしたら の底値圏での「大陽線」の出現は買いシグナルとされておりますのでその時点で「買い」と判断します。

次に売りの判断ですがトレンドラインで判断すれば の所となり、移動平均線で判断すれば平均線を下回った所となりますのでやはり の所となります。

ローソク足で判断すればかなり上昇した後に出る「つつみ線」は相場転換を暗示すると言われておりますので の所が売りシグナルとなります。

この様に幾つかのチャート分析手法を身に付ければ判断の幅が広がり、出てくる答えも違ってきます。一步早めの決断が利益を増やし、リスクを少なくする事に繋がると言えるでしょう。株式投資で勝つ為にはより多くの分析手法を身に付ける事が重要だと言えます。



上のチャートをご覧ください。このチャートの場合には小刻みなトレンドライン(黒線)に対しては見事に反応しているのですが、今まで述べて来た様な中長期のトレンドライン(赤線)には全く効果を発揮していない事が解ります。

それぞれのチャートがどのトレンドラインに反応しているのか、そのチャートの習性を見極める事が重要となります。

次に黒矢印の所をご覧ください。株価が一旦移動平均線を下回りますが、再度上

昇して移動平均線を上回って来ています。これはグランビルの法則の買いシグナルですがこれには見事に反応していると言えるでしょう。

ただ天井圏（赤矢印）では反応しておりません。これは天井圏だからと言う理由だけではなくて、別の理由が存在していますのでご説明させていただきます。

テクニカル分析と言う概念から考えた場合、「エリオットの法則」の上昇5波が終了しているからと捉える事が自然な判断だと言えるでしょう。

勿論 100%では有りませんが上昇5波終了後の株価の上昇は（赤矢印の所）不自然な動きと捉えて、新規投資は見送る方が賢明だと言えます。

次にチャート上の青い矢印2つをご覧ください。

天井圏での大陰線による「つつみ線」の出現で株価は下げ始め、底値圏で大陰線出現後小さな陽線をはらむ「はらみ線」が出現し株価は下げ止り、急反発に転じている事から「ローソク足の買いシグナル」にも見事に反応している事が解ります。更にその後下降トレンドラインを突破し、移動平均線のゴールデンクロス、グランビルの法則と次々と「買いシグナル」を発信しながら株価は上昇しています。現在移動平均線と上昇トレンドラインが下値支持線となっている事から、今後株価が下落に転じるとすれば、移動平均線と上昇トレンドラインを下回った時と言えるでしょう。又は天井圏において売りシグナルとされるローソク足が出現するかも知れません。

株価は日々動いており、いつ基調が変化してもおかしくはありません。

チャートから発信される多種多様なシグナルを見逃す事無く、的確に捉えて行く事が非常に重要になって来ます。

「買いシグナル」「売りシグナル」が発信されれば、それに従ってある程度は機械的に売買する事が必要とされます。更にファンタメンタルズ的要素を加えればより確かな分析が可能になるでしょう。